

V 三木城跡、平井山ノ上付城跡の現状とその取扱いについて

調査者（阿部竜也、浅田哲也、宮田和男、
安田邦男、鳥越 茂、山岡秀行、山下史朗）

1 要 旨

三木城跡保存計画の参考資料とすべく現状調査を行った。城址にふさわしい公園にするため次のような対策を提案する。

- ① 本丸：南西にあるカヤの巨木は堂々としており残したい。北西寄りにあるツツジは刈りこみ、同じ場所にあるサクラが引き立つようにする。同時にサクラの樹勢回復も図る。北東面の神戸電鉄との境界法面は放置されているので、電鉄会社に整備を依頼する。この一角から平井山ノ上付城が遠望できるので、一部を切りすかす。忠魂碑付近にあるコウヨウザンやヒマラヤシーダの外来種は城址にふさわしくないので除去する。保育園の近くにあるアラカシの垣根は樹高を半分にして見通しを良くする。
- ② 二の丸：西から南に渡る城址外周の樹林はエノキ、サクラなどが高く厚い樹林を構成している。中木のタケは半分に減らし、シュロは城址にふさわしくないのですべて除去する。エノキなどの高木は枝を切りすかし、樹林越しに城址が見えるようにする。
- ③ 平井山ノ上付城：段状平坦地は林内が暗いので、除伐して明るい林にする。秀吉本陣にある物見櫓から三木城址がよく見えるように、コナラは樹高を低くし、タケは半分に減らす。土塁を守るために伐採木を上積み、見学者の踏圧から守る。

2 はじめに

平成25年3月に領主の居城と攻撃側の付城が一体的に残る貴重な事例として、三木城の本丸、二の丸、鷹尾山城跡が、平井山ノ上付城跡などの付城跡とともに国の史跡に指定されている。

また現在三木城跡は、本丸近辺が城址公園（上の丸公園）と保育所、神社、二の丸が図書館、美術館の敷地となっているが、NHK 大河ドラマの人気による後押しや、史跡活用の観点から、図書館などの移築による、本丸、二の丸における城址公園の拡充が進められており、三木市では平成26年度中に当該城跡の保存管理計画を作成する事になっている。

調査者らは、この計画に合わせて史跡保存の一助となるべく、三木城跡、平井山ノ上付城跡における現状の緑を調査し、城跡が適切な姿を維持するための緑の整理、管理手法を検討した。

3 現状調査

(1) 調査日

平成26年8月3日(日)

(2) 調査方法

三木城跡は北西、北東、南西面を樹林が覆い、当該地からの眺望はもちろん、周辺から城跡の存在を確認する事が難しく、これを解決するため、城跡内のビューポイント、また外からのフォーカルポイントを意識しながら各樹林の構成種、状況を目視確認した。

また、城址公園内にある忠魂碑周辺も多種にわたる高～低木が緊密に繁茂しており、忠魂碑を隠すばかりか、公園利用の観点からも、これを整理すべきと考えたため、同じく構成種や繁茂状況などを目視により調査した。

また平井山ノ上付城跡については、三木合戦における秀吉本陣跡として三木城跡と共に観光地として整備が進められているが、整備道を辿りながら、ビューポイントとしての整備が必要な箇所、整備による価値の損失が見られる箇所について植生内容と問題点を目視確認した。

(3) 結 果

1) 三木城跡

城址周辺の樹林はそれぞれ構成が異なるため、各樹林について述べる。

(図-1 参照)

1) 北東面樹林

周辺から見て重要なフォーカルポイントと考えるが、樹林が城址の存在を隠している。(写真①②) 樹林は急勾配の崖にあり、ムクノキ、アラカシ、マダケなど高木を中心とした内容で構成されている。

2) 本丸跡北西面樹林

構成樹種はアラカシやスギなど、植栽されたと思われるものが大半である。状況的に転落防止の為に植えられたものと考えられるが、そのビューポイントを阻害しているものもある。

3) 二の丸北西面樹林

地形や構成樹種が北東面樹林と類似しており、見通しが利かない状況である。

(写真③)

4) 南西面樹林

植栽されたサクラ(ソメイヨシノ)の他アキニレ、シュロ、タケ(マダケ)などがあり、サクラの生育を阻害している。(写真④)

5) 忠魂碑周辺植栽

構成樹のほとんどが植栽樹で、密度状態であり、奥行きを見通せない。また構成種も統一性が乏しく、ヒマラヤスギ、アラカシ、イロハモミジ、サクラ(ソメ

イヨシノ) などの高中木層から、ドウダンツツジ、ヒラドツツジ、ボックスウッドなどの低木が雑多に植栽されている。(写真⑤⑥)

2) 平井山ノ上付城跡

下の2か所に特記すべき状況が見られた(図-2 参照)

(1) 段状の平坦地群

兵の駐屯地跡であった当該箇所は整備が進められておらず、コナラ、タカノツメ、リョウブ、ネジキを中心とした樹林が広がり、過密状態で日光の入らない林床には低木がほとんど見られない。(写真⑩)

(2) 主郭

竹林や高木層にコナラの姿も見られ、視界を阻害している。(写真⑫) また、当該地は土塁を見せる為に樹木を伐採したため、土塁の表土が流出している。また、残存している樹木のうちソヨゴの倒伏率が高く、根返りによる土塁の破壊が進んでいる。(写真⑬)

(4) 現状から見た今後の課題

景観的要所にありながらほとんど管理されていないもしくは、不適切な管理によって城址の価値を損なっている樹林がある。

集客力のある城址公園としても、または城址として適切な姿を維持するためにも、これらの樹林を適切に管理できる形に変えていく必要がある。

4 対策

城跡の樹木やその周辺の取り扱いについては次のことが考えられる。

ア 三木城跡

1) 北東面樹林

フォーカルポイントとして重要ではあるが、皆伐はもちろん、無暗な間伐も法面の流出を招く恐れがあるため、対象を危険木などに絞り、伐採は慎重にすべきである。ただし、樹種を選定したうえでの断幹や枝抜きなどによる樹冠密度の軽減、樹冠の縮小をはかり、フォーカルポイントとして整備する。

また、景観の要所に竹林があるため、これらの高さを縮め、管理していく事で良好なビューポイントを設定できると考える。

2) 本丸跡北西面樹林

植栽されてビューポイントを阻害しているアラカシなどは萌芽枝を残して伐採し、中木、生垣として管理する。

また、樹木が込み合い、樹種も統一性がなく繁雑となっているため、外来種やスギなどの上方に伸びて景観を阻害しやすい樹木は間伐する。

3) 二の丸北西面樹林

地形や構成樹種が北等面樹林と類似しており、同様の管理をする。(写真③)

4) 南西面樹林

構成樹をサクラに限定し、他の樹種は伐採することにより管理された植栽地に戻す事が望ましい。

5) 忠魂碑周辺植栽

枝葉密度が低いイロハモミジなどの落葉樹や花木などを残し、視線を阻害する常緑の中木層を中心に間伐や樹冠縮小する。また城址という性格から外来種は伐採対象とし、管理していくことがイメージ作りの観点で重要である。

イ 平井山ノ上付城跡

1) 段状の平坦地群

地形は確認できるものの、メリハリがなく鬱蒼としている当該地は、樹木を選びながら樹林全体の密度を現在の 70%以下に間伐すべきである。それに伴い生じた樹林の変化については、今後の検討課題として対応すべきである。

2) 主郭

視界を遮るコナラは樹高を低くし、竹は間伐する(写真⑫)ほか、重要な箇所にあるソヨゴは倒伏によって土塁の破壊などの被害が見られるため、伐採していく方針は共通するが、土塁の表土保護と、保存する樹種の問題から様々な意見が挙がったため、下に3案を提示する。

(1) マツ林育成

当該地はかつてマツ林であると聞いている。現在も探せば小さいものの、実生を見つける事ができる。問題は、ソヨゴなどの樹木に被圧されているためにマツが育たない現状にある。マツの実生が見られる箇所の高木を間伐し、占有する樹種をマツに切り替えていく事で、表土の流出防止と健全なマツ林を再生していけると考える。

(2) 実生樹の育成

土塁上の皆伐した樹木から実生が発生しているため、これを保護し、高さ 1～2mで管理していくことで、景観と表土流出防止の2点を維持できる。

(3) 伐採、剪定枝の利用案

土塁の表土流出は雨水よりも人の踏圧に因るところが大きいと思われるので、剪定伐採した枝をある程度整理した形で土塁上に積む。他の2案に比べ即効性が高く、現在直面している危機を回避できる最も現実的な案と考える。ただし、現在も伐採した枝葉を現地に置いているため、景観上現況よりも低下するとは考えにくい。景観上の問題、今後の植栽管理の問題が課題となる。

5 おわりに

調査を終え、改めて課題の解決には、現地をこまめに確認し、監督できる人材の必要性を感じた。一般的な樹木管理の現場でもそうであるように、個々に性格を持つ樹

木の管理や景観づくりといった作業においては、設計図や文章では表しきれないところが大きく、扱う物件が重要であればあるほど、また管理手法がデリケートであればあるほど、一貫してプロセスを監理する事が必要となるからである。

その役目をみどりのヘリテージマネージャーが担う事が好ましいとは考えるが、地元の方々とのコミュニケーションを強めながら人材を発掘、育成する事により、無理なく事を継続していける体制作りができるならば素晴らしいと思う。

今回のレポートは、城址周辺の樹木管理についての概要を述べたものであり、現況調査に留まっているが、今後は管理の状況に応じながら、地元住民の協力を得て管理に当たることが望まれる。

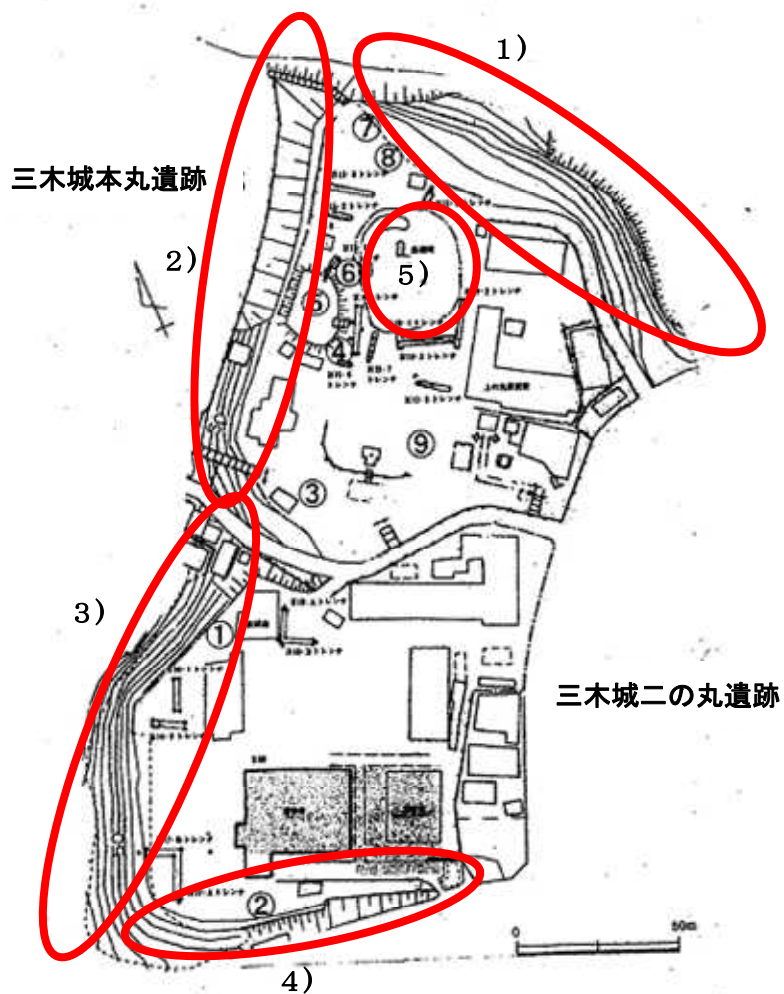


図-1 三木城の見取り図

- ・○囲い、片括弧の数字は（3）結果 三木城跡 で述べる各樹林に対応
- ・○枠の数字は写真番号に対応



写真① 北東の神戸電鉄との法面は傾斜が厳しく雑木が繁茂している。



写真② 北東の神戸電鉄との境
北東にある平井山ノ付城を遠望するため切りすかされた樹木も伸びて遠望が利かなくなっている。



写真③ 二の丸西側垣根になっている
樹木 切りすかしが必要



写真④ 図書館裏の境の樹木
シュロは除去、竹は半分に除伐



写真⑤ 元天守があった可能性の場所
であり、整備が望まれる



写真⑥ ツツジ類の垣根とサクラ
サクラ等の樹勢を回復させる



写真⑦ 別所長治公の石像



写真⑧ アラカシの林
樹高を 1/2 に短くし先の
見通しを改善する



写真⑨ カヤの巨木
巨木として残したい



図-2 平井山ノ上付城跡

- ・ ○ 囲い、片括弧の数字は (3) 結果 平井山ノ上付城跡 で述べる各樹林に対応
- ・ ○ 枠の数字は写真番号に対応



写真⑩ 段状平坦地
林内が暗く整備が必要



写真⑪ 秀吉本陣



写真⑫ 物見櫓から見える三木城
視界を遮るコナラは樹高を低くし、竹は間伐する。



写真⑬ ソヨゴは根が浅く根返りしやすい